

静岡市立千代田小学校

出前授業レポート

静岡県埋蔵文化財センター

令和4年9月13日(火)



「2時間で4つも体験でき、子どもたちも集中して活動できたと思います。」

静岡市立千代田小学校の6年生155人が、社会科の歴史体験学習として、昔の人たちがどんな生活を送っていたのかを体験する目的で、発掘調査と周辺遺跡の話、土器の分類、石器の試し切り、火起こしの4つの体験を行いました。



発掘調査と

周辺遺跡の話



「身近な谷津山にも大きな古墳があることを知ってびっくりした。」

まず、発掘調査の概要を話しました。発掘調査には、いろいろな作業があり、大変な仕事であることを理解したようです。次に、学校周辺の谷津山にも遺跡があることを伝えると、驚いていました。近くの遺跡には行ってみたいくなったようです。昔の人のおかげで今があることを感じていました。



土器の分類体験

縄文土器・弥生土器・須恵器の3つの土器を分類しました。縄文土器は比較的わかりやすかったのですが、弥生土器と須恵器の区別がつきにくく、難しかったようです。土器の作り方の違いを説明すると、理解でき分類作業が進みました。

「縄文土器は分かった。弥生土器と須恵器は教えてもらったら分かった。」

石器の試し切り体験



まず、石器の必要性を考えました。金属器がない時代には石で穴を掘ったり、木を削ったり、動物の肉などを切ったりしていたことを伝えました。黒曜石が貴重であることと、よく切れることを話し、実際に野菜くずを切ってみることにしました。切れ味の良さにとっても驚いていました。

「石で物が切れるってすごいと思いました。」「こんなに切れるなら、僕もほしいと思った。」

火起こし体験

よく晴れた日で少し暑かったのですが、涼しい藤棚の下で、もみきり法、弓きり法、舞きり法の説明をしました。その後、班に分かれて火起こしです。はじめは、弾み車をうまく回せずに苦労していましたが、次第にコツがつかめて、調子よく回すことができるようになりました。火きり弓がだんだん重くなってくると、2人で協力して押していました。火種ができると慎重に火口の上に置き、風向きを考えて息を吹きかけ、見事火が起きました。

松本先生の感想

「縄文時代や弥生時代の生活を少しでも体験させることができました。2時間で4つも体験でき、子どもたちも集中して活動できたと思います。子どもたちの反応を見ながら話をしたり、言葉がけをしていただいたので、とてもわかりやすく良かったです。今の時代がとても幸せであることを再認識し、自分の身近なところにも遺跡があることを知って、歴史にますます興味をもったと思います。」

「道具が少ないのにしっかり火がつくのびっくりした。」「弓を押していると、だんだん重くなって意外に大変でした。」

